

平成 2 4 年 1 2 月 猪 苗 代 町 議 会 定 例 会

町 長 所 信 表 明 要 旨

本日、

平成 2 4 年第 5 回猪苗代町議会定例会を招集いたしましたところ、議員の皆様には何かとご多用の中、ご出席をいただき、ご審議をお願いできますことに対し、深く感謝申し上げます。

今議会が開催されるにあたり、平成 2 4 年度一般会計補正予算案など、重要な議案を提出いたしておりますので、ご審議をお願いいたしますとともに、議員各位のご理解とご協力をお願い申し上げる次第であります。

提出議案の説明に先立ちまして、当面する市政の諸課題につきまして、所信の一端を申し上げたいと存じます。

（平成 2 5 年度予算編成方針について）

まず、はじめに、平成 2 5 年度予算編成方針について申し上げます。

国の本年 1 0 月の月例経済報告では、
「景気は、引き続き底堅さもみられるが、世界景気の減速等を背景として、このところ弱^{よわ}めの動きとなっている」と報告され。さらに欧州や中国等、
対外経済環境を巡る不確実性が高い中で、世界景気のさらなる低下や金融資本市場の変動、
収益や所得の動向、デフレの影響等についての警戒感も強めております。

また、国内政治の状況においても衆議院議員選挙を

控え、選挙の結果においては、これまでの現政権の
掲^かげてきた財政計画の継続においては不確定な要素が
多分にあり、平成25年度以降の国の地方財政計画や、
大震災、原子力災害からの本格的な復興に向けた財政
措置等についても、大きく見直される可能性も否定で
きません。

こうした状況下、本町では、災害復興関連事業や
風評被害対策事業を重点的に実施しておりますが、
いまだ、旅行客、特に教育旅行の大幅な減少により、
観光産業はもとより農業や商工業などの地域経済全体
が大きな影響を受けており、何よりもまず、観光客、
特に合宿などを中心とする教育旅行の誘致を図るため、
運動施設や交流施設の整備と各種大会の誘致、さらには
近隣市町村との連携によるソフト事業の充実に向けた
取り組みを急いでいるところであります。

町の財政状況におきましては、歳入の根幹である
町税収入は、平成25年度以降も引き続き減少する
見込みであり、地方交付税についても国の政局の
不安定さから先行きは不透明な状況にあります。

一方、歳出については、限られた財源を有効に活用
するため、経費の削減と事務事業の見直しを行い、
行政のスリム化に努めておりますが、扶助費等の
義務的経費の増加傾向に加え、新規大規模事業、
都市計画及び生活関連の道路などの社会資本整備、
下水道3特会への繰出金、施設管理経費の増加、急速
に加速する少子高齢化対策など多額の財政需要が見込
まれております。

こうした点を鑑み、平成25年度予算編成の基本方針としては、自主財源の根幹である町税収入の減少が見込まれるなどの厳しい状況下にあるとはいえ、「猪苗代町の活性化と発展」、「町民の暮らしを守り、未来への希望の持てる町づくり」という新たな町政の原点に立ち、私の公約であります「6つの宣言」、すなわち、

- ① 町民総参加による開かれた町政の実現
- ② 健全でわかりやすい行財政基盤の確立
- ③ 観光と農商工業が一体となった活気ある町づくりの推進
- ④ 町民の安全・安心な生活を守る
- ⑤ 少子高齢化対策などきめ細やかな福祉体制
- ⑥ 地域を担う豊かな人づくりの推進

さらに、復旧・復興を踏まえた施策並びに事務事業の重点化を図りつつ、編成することといたしました。

具体的には、決算等の執行状況を参考としながら、先例に縛られない新たな視点により、自主的・主体的に事務事業の徹底的な見直しと優先順位付けを行うこととした上で、歳入にあって、収納率の向上、受益者負担の原則の徹底、国・県はもとより各種機関の補助金・交付金等の特別財源の積極的な活用を図ることとし、歳出にあっては、経常的経費における冗費^{じょうひ}の削減を徹底するとともに、投資的事業は、事業の必要性、緊急性、投資効果、事業施行の確実性及び後年度の維持管理費等を十分検討し、振興計画実施計画及び各種個別計画に基づいて厳正に

計上することといたしました。

この方針を踏まえて、平成２５年度予算を編成するとともに、起債額が元金償還額を上回らないとする方針を^{じゅんしゅ}遵守することにより、将来にわたり安定した財政運営基盤を堅持してまいり所存であります。

（道の駅猪苗代整備事業の進捗状況について）

次に、道の駅猪苗代整備事業の進捗状況について申し上げます。

道の駅の整備につきましては、町民の方々のご意見が反映されるための整備検討委員会及び基本計画策定部会を設置して進めてまいりました、

この度、「基本構想」を実現するため、「道の駅」の導入施設の整備方針、規模算定、配置計画等について調査・検討をし、整備検討委員会のご意見をいただき、道の駅猪苗代基本計画を策定致しました。

まず、導入施設の休憩機能につきましては、広く利用しやすい約２９０台の駐車場の整備、明るく清潔なトイレの整備、快い休憩ができるよう磐梯山や猪苗代湖など本町を代表する景観を楽しめるレストラン・カフェ等の整備、町民憩いの場としての多目的広場やイベント広場の整備を予定し、２４時間利用可能な休憩施設として整備いたします。

情報発信機能であります、会津地方の東の玄関口として近隣市町村との連携により広域観光拠点として道路利用者への道路交通情報や観光客の多様なニーズに対応したきめ細やかな観光情報、産業振興を図るた

め地場産業情報等の受信・提供の拠点として整備する
ものであります。

地域連携機能につきましては、地場産品の販路の
拡大を図ると共に雇用場の、地域活性化の起爆剤とな
る施設の整備、「いなわしろブランド」の開発と定着を
図り、地域経済に貢献できる施設として物産コーナー
や加工所を整備するものであります。

防災機能につきましては、事故及び災害時の町民や
道路利用者の一時避難場所としての利用や緊急時や
災害時の支援活動拠点として利用できる施設と
ドクターヘリや災害時の利用を想定したヘリポートの
整備であります。

これらの必要面積として、国道１１５号線に接続し
た大字堅田字五百苅地内に３４、３９９㎡の用地確保
を計画しているところであります。

今後は、用地や地形等の調査・測量と
軟弱地盤の対策検討のための地質調査の結果を踏まえ
て、「基本設計」の策定や開発行為等に伴い、
農振農用地の除外申請や開発許可の申請、事業認定等
の手続きを進め、平成２７年４月のオープンを目指し
てまいります。

なお、本道の駅の整備は、国道１１５号の
道路管理者である福島県との「一体型」での整備を
することとしており、交通量に見合った駐車場スペース
やトイレ、休憩所、道路情報提供施設の整備に要する
経費の負担を県に求めるものであります。

この事業推進のためには、議会議員・町民各位のご

理解とご協力を賜りながら、よりよい「道の駅」の整備に努めてまいる所存であります。

（都市公園事業）

次に、都市公園事業について申し上げます。

「（仮称）猪苗代町ふるさと歴史館」の整備につきましては、本年6月定例会でも申し上げたところでありますが、このたび、建築の基本・実施設計が完了いたしましたので、この施設の整備概要について申し上げます。

建設にあたりましては、町振興計画が示すまちづくりの基本理念である、

「豊かな自然とすべての命を大切にする活気あるまちづくり」にふさわしく、全ての町民の方々に開かれ、気軽に楽しく集い、新しい文化の創造につながり、町民から愛される図書館と歴史資料の展示施設とすることを基本理念としたところであります。

建物本体は、入りやすく、利用しやすい平屋建てとし、鉄筋コンクリート造りといたしました。建築面積は1,170㎡、延べ床面積1,077㎡であり、図書館部分の^{かいかしつ}開架室には約5万冊、^{しゅうみつしょこ}集密書庫には約1万冊の合計約6万冊が収蔵可能となります。

また、町の文化財・歴史資料の展示や集会利用も可能とするため、歴史情報館の中央部には固定の家具を設置しない予定であり、ほかには事務室、機械室などを整備いたします。

建物の外部は、末永く利活用が図られるよう、

外壁や屋根の仕上げ材には耐久性の高い材料を使いながら、落雪を防止するために融雪の仕組みを導入し、お城山周辺の雰囲気に溶け込んで風格があり、実用性と美しさが調和して、利用者の皆様から愛され親しまれる建物を目指すものであります。

建物の内部は、自然の光を最大限に確保しながら、反射光も取り入れて安定した光の環境を整え、小さなお子さんから児童や生徒、高齢者の方々までの生涯にわたる学習を支援し、更にはさまざまな情報収集に役立つインターネット環境を無線LANにより提供いたします。

また同時に、歴史資料の展示施設におきましては、わが郷土の歴史文化に関する資料を保存・承継・発展させる役割も果たしながら、さらには町民の方々と本町を訪れる観光客の皆様との交流にも利用できる機能なども提供してまいりたいと考えております。

利用者の方が、玄関を入れて正面に位置する受付ロビー・カウンターからは、図書館内をひと目で見渡せるように書架を配置するとともに、安心・安全な利用を確保する観点から防犯カメラを設置することとしております。

更には親子で読書できるコーナーや、子どもさんを集めての読み聞かせに利用できる、壁で仕切られたお話コーナーと授乳室、静かな環境での読書や学習に最適な防音性に優れた静寂読書室、町の情報を提供する地域資料コーナーや、休憩用のソファを配置するなど、利用者本位のきめ細やかな配慮を心がけて整備

してまいる所存であります。

なお本事業は、国の社会資本整備総合交付金を活用し、平成24年度から25年度の2カ年で整備することとしており、工期は平成25年12月末に設定し、3カ月間の開館準備期間を経て、平成26年4月の供用開始を予定しているところであります。

（県合宿の郷整備計画について）

次に、「県合宿の郷整備計画」について申し上げます。

福島県喜多方建設事務所におきましては、磐梯山周辺を対象エリアとして、スポーツを中心とする合宿の誘致を推進することを目的とする

「合宿の郷整備計画策定委員会」を、本年10月27日に設置し、今年度内には計画案を策定する予定であります。

この委員会は、東京大学大学院教授などの学識経験者3氏、北京オリンピック・マラソン日本代表の佐藤敦之^{さとう あつし}氏、県の会津地方振興局長、喜多方建設事務所に加えまして、当町、磐梯町、北塩原村の首長で構成され、当地区の現状分析と全国の先進地の事例との比較検討、さらには首都圏住民等を対象としたアンケート調査を実施するなどして、合宿の受入体制の整備方針と誘客方法等を明確にすることとなっております。

県では、平成25年度以降は、この計画案をさらに深度化させ、県道や公共施設の整備を計画に盛り込むとの意向であり、磐梯山周辺3町村におきましても、

こうした支援に対応するため、より一層の連携を図りながら、県との協働体制を整え、ハード・ソフト両面から計画の策定とその円滑な実現に向けて努力してまいりたいと考えているところであります。

現在、本町は、東日本大震災と原発事故に伴う産業の停滞と風評被害という大きな課題に直面しており、1日でも早い解消に向けて全力を傾注しておりますが、その大きな施策の一つとして、スポーツ等の合宿の誘致促進のため、野球場、陸上競技場、スキー施設の整備を進めており、この「合宿の郷整備計画」が策定されることにより、スポーツ宣言の町としてふさわしい町づくりが出来るものと大いに期待をしている所であります。

さらに、既存の体育施設や交流施設のみならず、旧山潟小学校校舎、旧吾妻第二小学校体育館などの施設の再利用や、民間施設との相互連携による有効活用についても、検討にしていまいります。

いずれにいたしても、県の主導により策定される合宿の郷整備計画は、当町においては、まさに追い風となるものであり、この期を逃すことなくその策定と速やかな実行に努力してまいり所存であります。

（除染の状況について）

次に、除染の状況について申し上げます。

東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故に由来する環境放射線量の低減を図り、地域住民の安全と安心を確保するとともに、風評被害の影響を最小限

に食い止めることを目的に「猪苗代町除染計画」を本年２月に策定し、その計画に基づき、川上地区、千貫地区、酸川野地区、中ノ沢地区、市沢地区、達沢地区の６地区については、県の放射線量低減化活動支援事業の支援をいただきながら除染を実施してまいりました。

各地区の除染の進捗状況であります。川上地区、千貫地区、酸川野地区、中ノ沢地区の４地区につきましてはすべて完了したところでありますが、市沢地区、達沢地区につきましては、現在も除染作業を実施している所であり、まもなく、すべて完了する予定であります。

除染の方法は、住宅の玄関前や軒下及び周囲等の除染個所を特定し、表土を剥ぎ取り、そこに山砂を補充する手法と除染土壌等を土の中に埋める天地返してんちがえの手法を取り入れ、その場所に合った方法で行っております。

これまでに除染により搬出された汚染土壌等は、約６２立方メートルとなり、各地区のご理解をいただき、各々の仮置き場において保管・管理しております。

この他に局部的に線量の高い軒下等の表土剥ぎ取り等の除染を希望する個人宅についても、住民と町職員と協働で除染を行っており、それにより出された除染土壌等は各々の個人宅の敷地内での仮置きをお願いし保管しているところであります。

次に、除染の効果についてであります。

表土の線量が1.12マイクロシーベルトであった箇所が除染後は0.16マイクロシーベルトまでに低減されるなど、すべての個所で同様の低減効果がありました。コンクリートやアスファルト舗装等の線量については、高圧洗浄機による洗浄と合わせてデッキブラシによる洗浄を試みましたが、舗装の細かい隙間に放射線が潜り込み付着しているため、大きな洗浄効果が得られませんでした。

今後、町民の方々からのご要望にお応えすべく、除染効果の高い手法などを国・県等からの指導を受けながら、安心して生活できる環境づくりに努力してまいります。

（経済・雇用情勢について）

次に、経済・雇用情勢について申し上げます。

国の本年7月から9月期の経済情勢報告によりますと、ヨーロッパや中国の経済減速に加え、国内での「エコカー減税」終了などにより、

「緩やかに持ち直してきたものの、当期において足踏みがみられる。」として、3四半期ぶりに引き下げた基調判断を下方修正いたしました。

さらに、県内の経済は、「一部に弱い動きがみられるものの、緩やかな持ち直しがつついている。」と判断をしており、先行きに関しては、「復興需要を背景に回復していくことが期待されるものの、海外景気の影響による下振れリスクについて注意が必要である。また原発事故後の状況に留意が必要である。」としておりま

す。

判断の根拠として、「個人消費」、「雇用情勢」などは現状推移しているものの、「生産活動」が弱い動きとなっているためであります。

生産の落ち込みは、製造業を中心に残業時間や求人の減少につながることから、雇用にも波及してくるものと懸念している所であります。

雇用については、会津若松ハローワークの「9月例報告」によりますと、9月の月間有効求人倍率は、全国が0.81倍、福島県内が1.01倍、会津管内が0.99倍となり、前年比では、31ヶ月連続で上昇しています。

有効求職者数は、5,268人で、前年比6ヶ月連続で減少、有効求人数は、5,225人で、前年比32ヶ月連続で増加しております。

町といたしましては、「無料職業紹介所」の情報提供、「就職フェア」への参加などを通して、雇用の確保を行っております。

この様に少しずつではありますが、雇用環境は改善の方法に向かっているものの、求人者と求職者のマッチングができない状況にありますので、今後は、これらの改善に努力してまいり所存であります。

（風評被害対策について）

次に風評被害対策について申し上げます。

本年度は、6月に「風評被害対策計画」を策定し、

この計画に基づいて町内の関係機関と連携して、震災前の水準までに回復すべく事業を実施してまいりました。

今年の秋の紅葉シーズンには、多くの観光客をお迎えすることが出来ましたが、教育旅行については、まだまだ保護者の方々の不安を払しょくすることができず、震災前までの回復にはほど遠い状況であります。

しかし、「元気な猪苗代」を発信するために、今日まで、様々なイベントの開催や誘致を町内各種団体の皆様方と協働で開催してまいりました。

8月の「復興 花火大会」、9月の「風とロック芋煮会 2012 猪苗代湖」、10月の「猪苗代湖ハーフマラソン」に11月の「猪苗代新そば祭り」を開催し、交流人口の増加は勿論のこと、本町の「安心・安全」と「食の安心・安全」の情報発信をしてまいりました。

この冬に向けては、県内外からのスキー客等の誘客のための「キャッシュバッククーポン券事業」や「猪苗代観光商品券事業」、を本年も引き続いて実施することにしており、来年2月には、

「2013 FIS フリースタイルスキーワールドカップ福島猪苗代大会」が開催されることになりました。

本大会には、世界各国から多くの選手・役員と報道関係者をはじめ、県内外から多くのモーグルファンに加え、同時開催のお祭りイベントにも多くの観光客が来町いたしますので、この機会をと

らえて、「安心・安全」の情報と「おもてなし」を提供しながら「元気な猪苗代」を発信して、
2014年開催の全国高等学校総合体育大会スキー競技会のプレ大会として大会の成功を期してまいります。

また、町内事業者のための金融支援事業も継続するとともに、観光客の誘客促進事業として、
県内の小中高等学校を対象とした体験活動応援のための交通費の助成事業、インターネットを活用した旅行商品事業等を展開して、誘客に努めてまいる所存であります。

（米の収穫状況について）

次に水稻の収穫状況について申し上げます。

水稻の生産調整につきましては、本年度本町に配分されました生産目標数量10,893トンに、
東日本大震災により作付けが不可能となった地域から買い入れた市町村間調整数量1,360トンを加えた12,253トンに対し、生産量は12,132トンとなり、達成率99.01パーセントの生産目標数量内でありましたので、目標を達成することができました。

これもひとえに、農家の方々のご理解とご協力、
更には集落営農体制の賜物であり、改めて感謝申し上げます。

さて、本年の水稻の収穫状況であります。田植えは平年並みに行われ、その後、若干低温の影響があったものの、7月下旬以降はおおむね好天に恵まれたことから生育は順調に推移し、作況指数は、

全国「１０２」、会津地方は「１０１」の平年並みとなったところであります。

また、品質面では、会津平野部等において、夏場の高温により^{どうわれまい}胴割米が発生するなど、若干厳しい結果となったのに対し、本町の主力品種である「ひとめぼれ」は、一等米比率が９７．８パーセントとなり、昨年に引き続いて非常に高い割合で良質米の生産ができたとともに、販売価格も昨年を上回る傾向にあることから、今後とも、ＪＡあいづとの連携を図りながら、消費者の求める、「安心・安全なコメ」、「おいしいコメ」の生産に支援をしてまいる所存であります。

（全量全袋検査について）

次に、米の全量全袋検査について申し上げます。

東日本大震災に伴う原発事故の影響による土壤中放射性物質への対応については、農作物への吸収を防ぐことを目的として、塩化カリウム等の^{きゅうしゅうよくせいざい}吸収抑制剤やゼオライト等の吸着剤の散布を行ってまいりました。

また、生産されました玄米につきましては、旧市町村を単位としたモニタリング検査のほかに、食品中の放射性セシウム基準値を超過する米の販売・出荷等を未然に防止するとともに、検査結果を消費者等に公開することで風評への対策を講じることが目的に、猪苗代町農業活性化協議会が主体となって米袋等を単位として、全量全袋の検査を実施してまいりました。

検査対象は、出荷米や自己保有米はもちろんのこと、加工用米や飼料用米など平成24年に生産された30キロ入りのコメ袋29万5千袋^{あま}余りの全ての米について検査を行っております。

これまでの検査の結果は、食品衛生法に定める基準値を超えた米は一袋もありませんでしたので安堵している所であります。

これまでの検査に際しては、JAあいづをはじめ、各集落推進員や農家の方々のご理解とご協力をいただきましたので、大きなトラブルもなく順調に検査することができ、先月末を持って終了できましたことに感謝申し上げる次第であります。

ありがとうございました。

（さくらの里づくり事業について）

本町では、平成12年に全国育樹祭が開催されたことを記念して、「自然にやさしいまちづくりの推進」というテーマの下、「さくらの里づくり事業」を創設し、町内に一万本の桜の植樹を目指しております。

この度、株式会社DHC（ディーエイチシー）の東日本大震災の被災地支援事業として、

「企業の^{もり}森林づくり協定」に基づき、本町のびわ沢原森林公園内に1,000本の桜の植樹を行いました。

「DHC桜みらいプロジェクト」と名付けられたこの植樹祭は、11月4日に、企業の社員や会員及びそのご家族、約200人の参加者のもと、

「全国桜サミット」を構成する１９の自治体から提供を受けた、ソメイヨシノや山桜等の苗木を森林公園内約７．６ヘクタールに植樹を行ったものがあります。

本協定により平成２８年度までの間に定期的に多くのＤＨＣ関係者が来町され、下草刈りや施肥などの育林作業を行うことになっております。

また、全国の有名な桜が一ヶ所に植栽されることは、全国的にも例がなく、近い将来、日本一の桜の名所として、多くの観光客が訪れることが期待されますので、町といたしましては、専門的な指導をいただきながら万全な管理を行ってまいります。

更に、同じく被災地への復興支援として、東京都豊島区からソメイヨシノの苗木１０本の寄贈を受けましたので、今月８日に豊島区長様をはじめ、関係者をお迎えして、びわ沢原森林公園内で記念植樹を行うことにしており、これもまた、大切に育ててまいります。

町内の至る所に現在約七千本の桜の苗木を植樹しておりますが、今後も、森に親しみ、自然を愛する心、緑を大切にする心を育むことを目的に

「さくらの里づくり事業」を推進してまいり所存であります。

（提出議案）

最後に、本定例会に提出いたしました議案について申し上げます。

提出いたしました案件は、

専決処分の報告案件が 2 件

専決処分の承認案件が 1 件

平成 24 年度補正予算案件が 9 件

条例の一部改正案件が 3 件、

条例の制定案件が 2 件の計 17 件であります。

まず、承認第 10 号「専決処分の承認を求めることについて（平成 24 年度猪苗代町一般会計補正予算（第 4 号）」

については、11 月 16 日の衆議院の解散に伴う、

12 月 16 日投票予定の衆議院総選挙に係る執行経費予算を専決により補正を行ったものであります。

議案第 83 号「平成 24 年度猪苗代町一般会計補正予算（第 5 号）」から議案第 91 号「平成 24 年度猪苗代町農業集落排水事業特別会計補正予算（第 2 号）」までの主な補正は、

国・県の交付金等や事務事業等の事業の確定及び確定見込等によるものであります。中には、原発事故により被った地域ブランド・イメージの低下等による損害からの回復を

図^{はか}る事業のための基金の造成などの経費を計上いたしました。

以上、主な提出案件につきまして、ご説明申しあげましたが、各議案の細部につきましては、それぞれ所管の課長に説明いたさせますので、慎重にご審議のうえ、速やかなご議決を賜りますようお願い申し上げます。

どうぞよろしくお願いいたします。

以 上